

P **〔単元の目標〕**

- ・スポーツの分野で活躍する人について、概要を捉え英語で伝えることができる。
- ・自分の好きな有名人やスポーツ選手について、調べた事実や感想を述べ紹介することができる。

D **〔単元の目標の達成に向けた手立て〕**

	手立て	資料
①	学習への見通しをもち、言語活動への挑戦意欲「やれそう!」を高めることができるよう、ICTを活用して単元の導入を行う。	
②	習得した知識・技能を正しく活用し、自信をもって英語で表現できるよう、AETとの言語活動を単元の中で繰り返し行う。	
③	1人1台端末を活用し、パフォーマンステストを行う。	

C **〔単元の目標の達成状況〕**

- ・スポーツ選手について、言語活動に粘り強く取り組んだことで自信が付き、ペアで概要を捉えたり関係代名詞を用いてAETに説明したりする生徒の姿が見られた。
- ・新しく学習した表現だけでなく、これまで学習した表現について十分理解が図られておらず、つまづきがあり、単元のゴールとなるパフォーマンステストにおいて、教師のモデルから幅を広げることが難しい生徒がいた。

A **〔改善の方向性〕**

- ・スピーキングやライティングの資質・能力の向上が図ることができるよう、単元のゴールとなる活動で教師やAETからのフィードバックだけでなく、学習成果や学習方法の共有するなど、生徒が互いを評価し合う場を設定する。
- ・自己表現の場を設定し、「これを伝えたい!」「どんな風に表現したら良いかな?」など自信や関心をもって学習活動に取り組めるようにする。

児童生徒が意欲的に英語の学習に取り組むために～ICTの活用～

学習の成果を蓄積していくTOOL【Teamsの活用】

- パフォーマンステストに向けての作成物、スピーキングテストにおける音声や動画などの学習の成果物を蓄積し、自分自身の変容を振り返ることができるようにしている。

デジタル教科書の活用

- 一人一台端末で音声や動画の再生を自分のペースでリスニング、オーバーラッピングの活動行っている。
- ライティングの活動において、「自分に必要な回数・部分」を自分自身の苦手なところに応じて選択し、取り組んでいる。

学習課題の提示・フィードバック

- デジタルコンテンツを活用し、学習内容の定着を図る。また英作文の学習の際、学習課題の提示→提出→フィードバックまでの流れを、ICTで提示している。

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

①学習への見通しをもち、言語活動への挑戦意欲「やれそう！」を高めることができるよう、ICTを活用して単元の導入を行う。

〔生徒の活動〕

○AETや教師の好きなスポーツ選手についての話を聞いて内容を理解し、単元で取り上げる言語材料に気付く。

○教師の好きなスポーツ選手についてのクイズに答えながら、パフォーマンステストへの見通しをもち、学習計画を立てる。

〔教師の指導〕

○既習の表現や新しく学習する表現を織り交ぜた対話を教師とAETが行い、新しい表現について生徒の気付きを促す。

○ICTを用いて教師の好きなスポーツ選手を紹介し、単元のゴールとなる活動のモデルを示した。

〔工夫点〕

○関係代名詞whoやwhichを使った表現を繰り返し聞かせることで、文法の構造や意味に気付かせるようにした。

○生徒にとって馴染みのあるスポーツ選手を単元の導入で取り上げることにより、「自分だったら・・・」と活動への意欲が湧くようにした。写真や映像を用いて紹介することで、興味関心が高まるようにした。

AETによる「好きなスポーツ選手」の紹介の様子。新出の表現の導入だけでなく、学習内容に興味・関心をもたせる。

A  B  C 

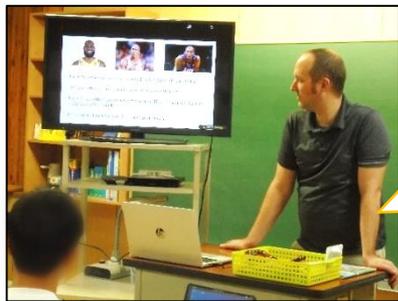
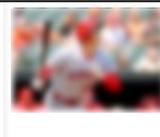
This is a very famous athlete who lives in America.

He is an athlete who has lived in Hokkaido for 4 years.

He is an athlete who likes history.

Otani Syohei is a very famous baseball player.
He has been playing baseball since he was 8 years old.
I'm surprised that he played badminton when he was little.
He likes soccer, and he doesn't

パフォーマンステストで期待する姿のモデルを示すなど、学習活動に見通しをもたせるとともに、評価規準を可視化する。



単元の目標の達成に向けた手立ての具体

②習得した知識・技能を正しく活用し、自信をもって英語で表現できるよう、AETとの言語活動を単元の中で繰り返し行う。

〔生徒の活動〕

○紹介したいスポーツ選手について、概要を捉えて関係代名詞など、ふさわしい表現を選び、AETに伝える。

○表現の正確さなどについて、生徒同士の交流を通して確認する。



「英語で伝える」習慣作り。
AETと話す活動を繰り返していく中で、「英語で話すことの抵抗感」や「間違えてしまうことへの不安」が軽減されていくよう働きかける。

〔教師の指導〕

○学習した表現を適切に用いることができているか、一貫性のある文章になっているかなどセルフチェックする確認項目を提示した。
○適切な表現を選択することが難しい生徒には、違う表現での伝え方はないか問いかけ、最後まで英語でコミュニケーションをとるよう促した。

○教科書本文の内容について整理するペア活動、感じたことや考えたことを言語化する個人思考など、学習形態を工夫した。



教科書本文の内容について整理しているペア活動の様子。
お互いのノートを見合い、自分とは違う表現や、より分かりやすい表現にも着目できるようになってきている。

〔工夫点〕

○授業の終末に、AETに伝わっているか、正しく表現できているかを教師だけでなく生徒自身が確認できるようにした。

○生徒同士で確認する場を設けることで、正確さの確認だけでなく、友だちのより良い表現に気付くようにした。

児童生徒が意欲的に英語の学習に取り組むために～AETの役割～

異文化交流の観点から



異文化の紹介等を行う。
英語の学習への意欲向上につなげる。

学習への意欲の向上

パフォーマンステスト評価者として



個に応じた支援の充実

パフォーマンステストにおける発表の相手や評価者として児童生徒にフィードバックを行う。

学習者として



話し合いの場などにおいては、学習者の1人となって活動に参加する。

考えを広げたり深めたりできるよう協働的な学びの実現

双方向のやりとり



英語を使用した即興性のあるコミュニケーションを楽しむためには…

「英語でコミュニケーションを図る」という目的のもと、AETとの話す・聞く活動の実施。

音声や表現のモデルとして



新出単語や表現を学習する際、発音のモデルとなる。

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

③ 1人1台端末を活用し、パフォーマンステストを行う。

〔生徒の活動〕

- 自分の好きな有名人やスポーツ選手についてICTで調べて情報を集め、AETに伝えたい事柄を整理する。
- スライドに調べたことや自分の考えなどをまとめ、AETに紹介する。



紹介したい人物についてインターネットで調べたり、クイズを作成したりしている生徒の様子

手元にあるシラバス(パフォーマンステストにむけての自身の進捗度合いを記述しているもの)をもとに、自由進度学習の形式で活動を進めた。

〔教師の指導〕

- 相手意識や目的意識を再確認し、構成が工夫されるよう声掛けを行う。
- 単元での学習内容が生かされているかを机間指導したり、英作文につまづいている生徒には教師のモデル文から表現方法に気付かせるなどの手立てを工夫する。



パフォーマンステストの様子 ICTを活用し、AETにクイズ出題している。

パフォーマンステスト後は、AETからのフィードバックを受け、テストに対する自己評価や単元を通しての自己評価をシラバスに書き込み、振り返りとした。

〔工夫点〕

- Teamsのコメント機能を活用し、構成について生徒同士が助言し合える環境を作った。
- 紹介の形式等については生徒自身で選択し、自分のペースで学習を進めることができるようにした。

取組を継続しての成果

【具体的取組】

- ・パフォーマンステスト前後、生徒同士の相互評価やフィードバックの場を設ける。→「教え合う」だけでなく、「悩み合う」時間を設けた。
- ・生徒の興味関心に沿った自己表現の場を多く設ける。→ 正確さにこだわらず、「とにかく楽しく！とにかくたくさん！」の声掛け。

変容①

(生徒の姿から)

・ミニディスカッションにおいて、英語での表現が思い浮かばないとき、日本語を使用して伝えたり、伝えることを諦めてしまったりしていた。



・語順や文型の誤りがある部分はあるが、相手に伝わるまで粘り強く英語で表現する姿が見られた。

《コミュニケーションの活動に
向き合おうとする態度の形成》

変容②

(ふり返りの記述から)

・英作文でいくつかの文をつなげたいとき、どう英語で表現すれば良いかが分からなかった。



・英作文の中でまだ後置修飾をうまく使えないけど、不定詞を使うと行動の目的が説明できるとアドバイスをもらい、分かりやすい表現に書き換えることができた。

《自己分析・自己調整》

変容③

(12月実施の9年生のアンケート結果から)

・英語の授業で学習したことを日常生活の中で使っていますか。
・将来英語を使うような職業につきたいと思いますか。

→「ややそう思う」と肯定的な回答になった。

《学習成果の実感・苦手意識の緩和》

取組を継続したことで、コミュニケーション意欲や学習意欲の向上につながった。

【今後に向けて】

・同じ町内の学校と遠隔システムをつなぎ、コミュニケーション活動をしたり、ALTにメールを送り、返信をもらったりするなど、1人1台端末を効果的に活用した言語活動を充実させ、さらに、生徒のコミュニケーションへの意欲や学習意欲を高めていく。